

社会福祉をめぐる日本の精神風土に関する批判的一考察

—真摯な厚生省高級官僚がわれわれに問いかけているもの—

○ 西南学院大学 氏名 賀戸 一郎 (001374)

「フクシ」、 「クニ」、 ソーシャル・サービス

1. 研究目的

真摯な厚生省高級官僚とは、山内 豊徳 氏 である。1990年9月、水俣病訴訟に対して、東京地裁が和解勧告。11月28日、北川長官の水俣現地視察決定(12月5日、6日)。12月5日、自宅の自室で自死した。1992年12月5日付で発行。山内の死後遺稿集として、第1部：論文・エッセー集、第Ⅱ部：それぞれの思いの2部構成で、タイトルは『福祉の国のアリス』と名付けられている。この中から、本の題名と同じテーマで第一部に組み込まれている「福祉の国アリス」を取り上げている。この論文は、故人がアリス・ヨハンソンという外国人を装って福祉をめぐる日本の精神風土を批判した論文と説明されている。もともとこの論文は、「福祉新聞」(昭和55～58年)に連載されたものから抜粋されたものである。

本論文が記されてから随分時は経過しているが、この中で述べられていることは、決して解決済みの問題だとは思われない。むしろこの論文の中で記していることが整理され、理論的、実践的に再構築しないと、わが国に本物のソーシャルワーク、ソーシャル・サービスは根付くことはできないと思う。混迷しているわが国の社会福祉の理論と実践を再構築して、しっかりと根付かせることは不可能であり、そのうちに本来のソーシャルワーク・ソーシャルワーカー、ソーシャル・サービスは枯渇してしまう恐れすら抱いている。

2. 研究の視点および方法

ひとりの先行研究に焦点を置き、現状に対して批判的な視点から考察を加える。

3. 倫理的配慮

本研究においては、日本社会福祉学会研究倫理指針「学会発表」の規定を遵守した。

4. 研究結果

① 日本では「フクシ」という言葉(日本語でwelfareの意味)に大変な人気がある。欧米にも英語でいうソーシャル・ウェルフェアという言葉があるにはある。しかし、日本でのような人気のある言葉にはなっていない。

日本人はなぜソーシャル・サービスのように実践的な社会活動のことを、ことさらに「福祉」という抽象的な理念で装うことに熱心なのか。その一つの理由が日本人の文化の背景にある仏教の影響から出ていると判断する。日本人の心情を伝統的に支配して来たものの一つに仏教が説く「慈悲」の精神がある。

② 憲法が支える「福祉」の威信

日本人がソーシャル・サービスのことを「フクシ」と呼んで尊重する理由には、もうひ

とつきわめて現代的な事情もある。日本が第2次世界大戦において敗戦国となり、アメリカの書いた憲法草案をもとに新しい社会を開くようになったという事情である。

1945年夏以来、日本人がはじめて経験する「敗戦後」の時代が始まった。戦後の新しい憲法、これは当時日本を占領していたアメリカ人が書いたテキストを基礎にして制定された。その一節にソーシャル・ウェルフェアを高らかに歌い上げた箇所がある。

始めアメリカ人がこの一節を書いた段階では、新しい国家の立法原理として、平和や民主主義、社会の安定や公正、公衆衛生と並んで社会の福祉ということが掲げられていた。ところが議会で日本人たちがこれを審議しているうちに、ソーシャル・ウェルフェアと社会保障、公衆衛生の3つの理念だけが残される結果となった。この時憲法に規定された鮮烈な政策理念の表明によって、日本人の「フクシ」への崇拝が力づけられるようになったことは間違いない。

③ 「クニ」の慈悲としての福祉

憲法に規定された社会福祉の理念が、日本のソーシャル・サービスの土壌に根を下ろさないまま開花してしまった事態の要因は、日本人の国家間にもある。日本人という「フクシ」の概念には、「国家が配分する幸福」という意味が込められていることが分かってきた。

政府が社会福祉のために推進する政策が適切でないという表現を用いる人はおりません。「クニは社会福祉を守っていない」とか「クニは社会福祉を後退させる」といった表現を用いるのです。しかもこの場合、日本人がしきりに用いる「クニ」という言葉は、われわれが用いる政府とはかなり意味合いが違っていることにも注意する必要があります。

日本人の念頭にある「クニ」の観念は、東洋的な父権国家の思想を素地にして成立しているのです。ソーシャル・ウェルフェアとは、「慈悲の主体」ある国家と、「慈悲」の受け手である国民との関係ということになったわけである。したがって、今日でも、日本人が唱える「フクシ」というのは技術や費用や人材を動員して運営されるソーシャル・サービスのことではなく、憲法にうたわれた国家の「慈悲」の責務ということなのです。

④ 社会福祉の様々な構図

憲法の厳粛な舞台のうえで、クニという日本人独特の国家観念と仏教の伝統的な教条である。「慈悲」の観念が結合して生まれた理念、それが日本人の敬慕する「フクシ」なのである。「フクシ」を学術的な理論の形で説明することにきわめて熱心でした。意見や期待を述べるにはふさわしいテーマであっても、理論としての分析や構築の対象とするにはあまり広大な概念であるソーシャル・ウェルフェアに、なんとかして学術的な扮装を着せかけようとする日本人を不思議に思ったりした。

5. 考察

前述の結果として4点に整理した。これらの特色や課題をより理解して深め、日本における実践理論としての「ソーシャル・サービス」・「ソーシャルワーク」を実動的なものにしたいと望むならば、関連する諸課題についても、より深く検討することが必要である。